

表3. 感染症発生動向調査における年別・都道府県別 STD 定点数(1999~2011年)

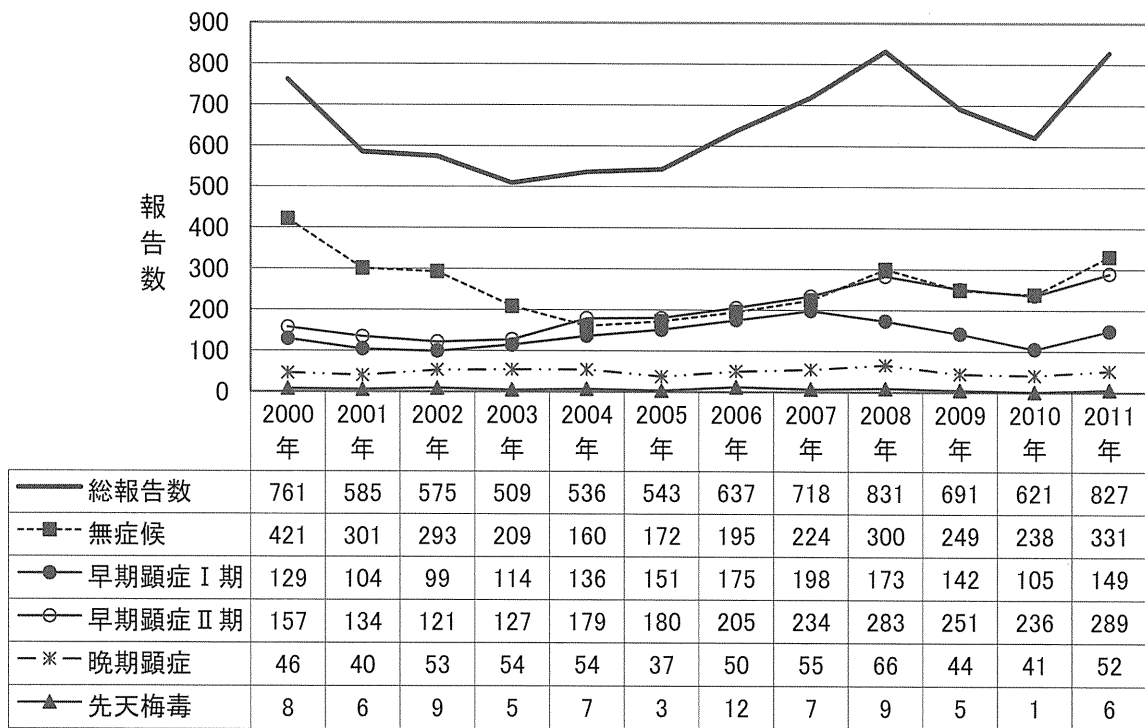
	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年 (12月)
全国	855	897	911	917	920	916	931	946	968	971	961	965	962
北海道	41	44	43	41	42	41	42	42	42	41	41	41	42
青森県	13	14	12	12	13	13	13	13	12	12	13	13	13
岩手県	12	13	13	13	13	13	13	13	13	14	15	14	13
宮城県	17	17	18	18	18	18	18	19	19	19	19	19	18
秋田県	11	14	14	14	14	14	13	14	14	14	13	14	14
山形県	10	10	9	10	10	10	10	10	10	9	10	10	9
福島県	16	16	16	16	16	16	16	21	20	16	16	16	16
茨城県	20	20	17	21	21	21	21	21	21	21	22	22	22
栃木県	15	15	16	16	16	16	16	16	16	16	17	17	17
群馬県	24	25	24	25	25	25	25	26	26	26	26	24	23
埼玉県	36	47	51	50	50	50	52	53	55	55	55	55	55
千葉県	34	39	39	39	37	38	43	38	37	37	36	38	41
東京都	40	39	41	40	41	41	41	40	51	54	54	53	54
神奈川県	55	59	60	60	60	60	60	57	58	60	57	59	57
新潟県	19	19	19	19	19	20	17	15	15	14	15	15	15
富山県	6	7	7	7	7	7	7	10	10	10	10	10	10
石川県	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
福井県	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	4	5
山梨県	5	5	6	6	6	6	6	8	9	8	9	9	9
長野県	14	15	16	16	16	16	16	16	16	16	15	15	15
岐阜県	14	15	15	15	15	15	15	15	14	14	14	15	15
静岡県	29	30	31	30	30	29	30	29	30	30	30	30	30
愛知県	50	50	51	50	51	51	51	57	61	63	63	63	64
三重県	14	15	14	13	15	15	15	15	15	15	15	14	15
滋賀県	9	8	9	9	9	9	9	8	9	9	9	9	9
京都府	23	23	22	21	22	22	22	22	22	22	22	22	23
大阪府	45	54	59	59	58	59	59	63	63	64	63	64	64
兵庫県	45	45	46	46	45	47	51	46	46	46	45	46	46
奈良県	9	9	9	9	8	9	9	9	9	9	9	9	9
和歌山県	8	8	8	8	8	8	8	7	8	8	8	8	8
鳥取県	5	5	5	5	5	5	5	5	4	5	5	5	7
島根県	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
岡山県	16	17	17	15	17	17	16	21	22	20	18	18	17
広島県	28	25	23	27	26	27	27	22	23	23	23	22	23
山口県	11	11	12	12	12	12	12	10	11	12	12	12	12
徳島県	5	6	6	6	6	6	6	6	8	6	5	6	6
香川県	8	9	9	9	9	7	7	13	15	15	15	15	15
愛媛県	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
高知県	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
福岡県	16	24	34	37	37	31	38	37	38	38	36	36	37
佐賀県	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
長崎県	10	10	7	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10
熊本県	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13	13	13
大分県	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
宮崎県	11	11	11	11	11	11	11	10	13	13	12	13	13
鹿児島県	16	16	16	16	16	16	16	15	16	16	16	16	16
沖縄県	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12

2012年1月13日現在

1999~2010年は各月に報告のあった定点数の平均(切り捨て)、2011年は2011年12月に報告のあった定点数を表示。

+

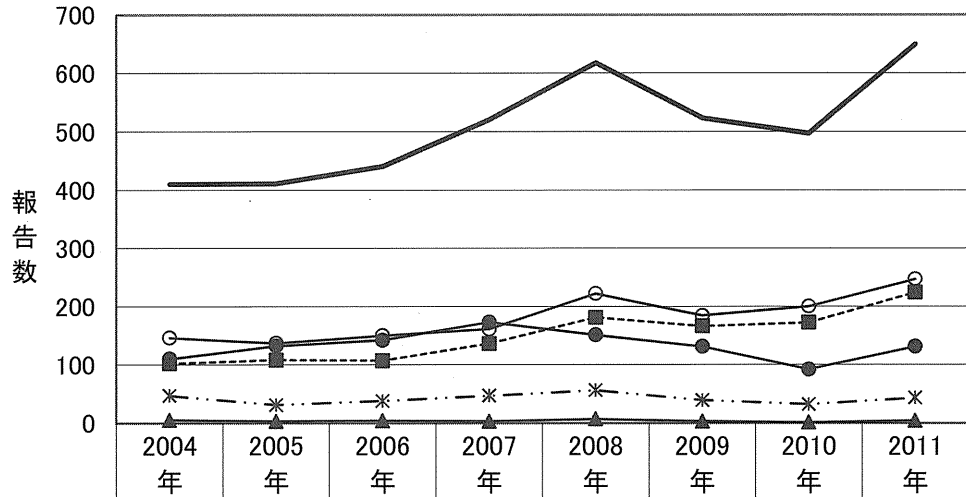
図8. 感染症発生動向調査による梅毒報告数の年次推移(男女総数)(2000～2011年)



2012年3月3日現在

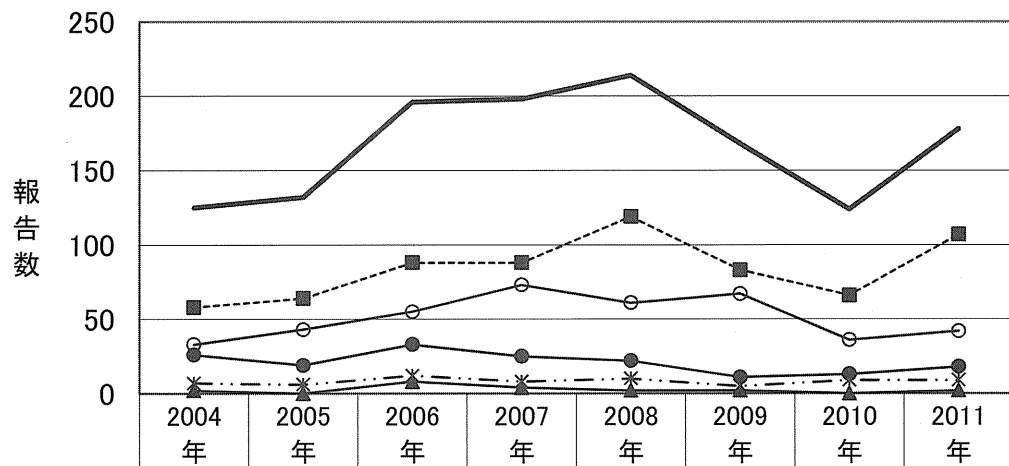
図9. 感染症発生動向調査による梅毒報告数の年次推移(男女別)(2004～2011年)

男性



—●— 総報告数	410	411	441	520	617	523	497	649
- -■- - 無症候	102	108	107	136	181	166	172	224
—●— 早期顕症Ⅰ期	110	132	142	173	151	131	92	131
—○— 早期顕症Ⅱ期	146	137	150	161	222	184	200	247
- * - 晩期顕症	47	31	38	47	56	39	32	43
—▲— 先天梅毒	5	3	4	3	7	3	1	4

女性

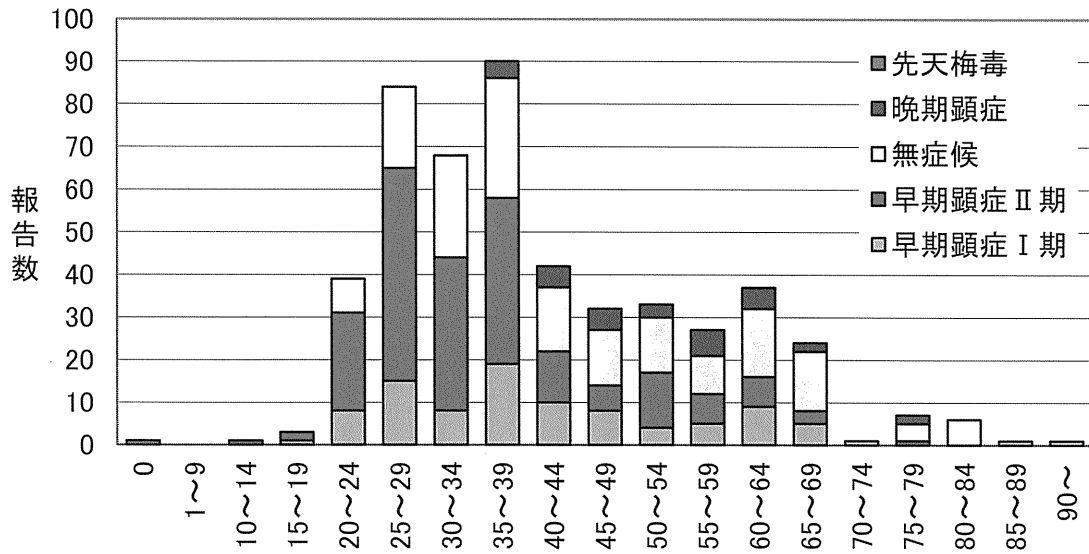


—●— 総報告数	125	132	196	198	214	168	124	178
- -■- - 無症候	58	64	88	88	119	83	66	107
—●— 早期顕症Ⅰ期	26	19	33	25	22	11	13	18
—○— 早期顕症Ⅱ期	33	43	55	73	61	67	36	42
- * - 晩期顕症	7	6	12	8	10	5	9	9
—▲— 先天梅毒	2	0	8	4	2	2	0	2

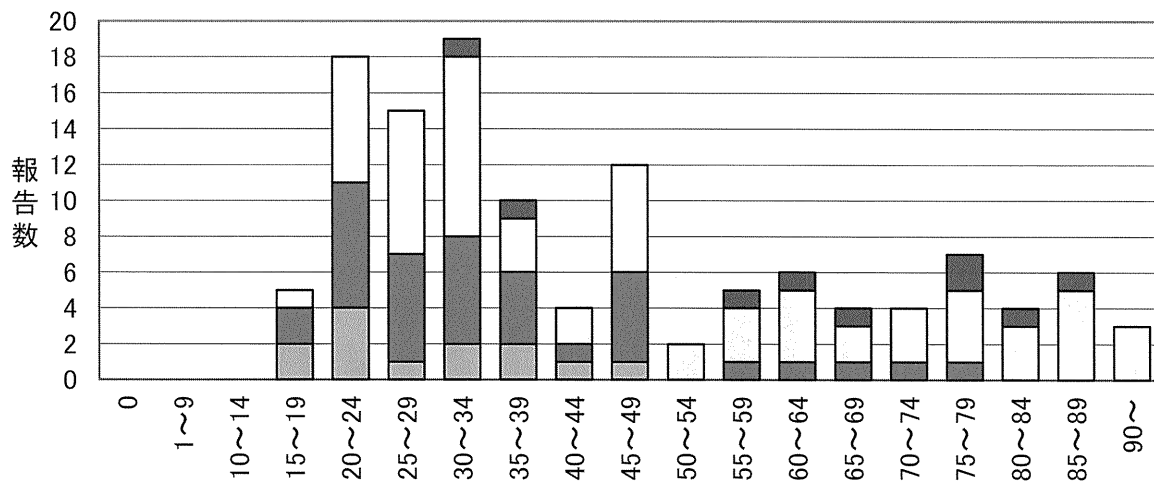
2012年3月3日現在

図10. 感染症発生動向調査による梅毒の年齢群別病型分布(2010年)

男性 n=497



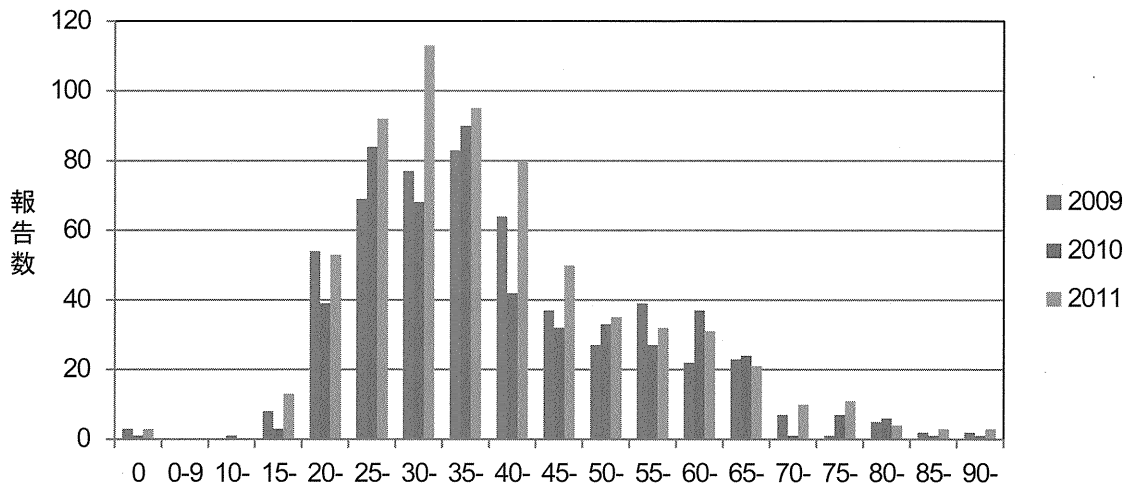
女性 n=124



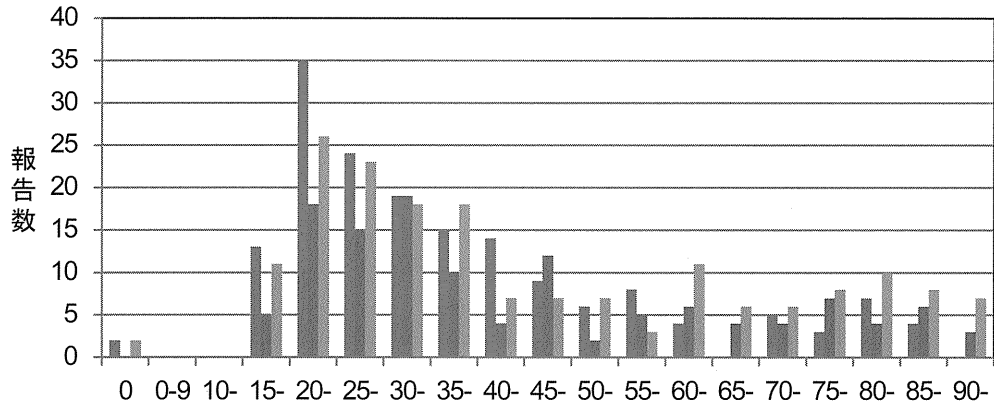
2012年3月3日現在

図11. 感染症発生動向調査による梅毒の年齢群別報告数の年次推移 (2009~2011年)

男性 n=1669



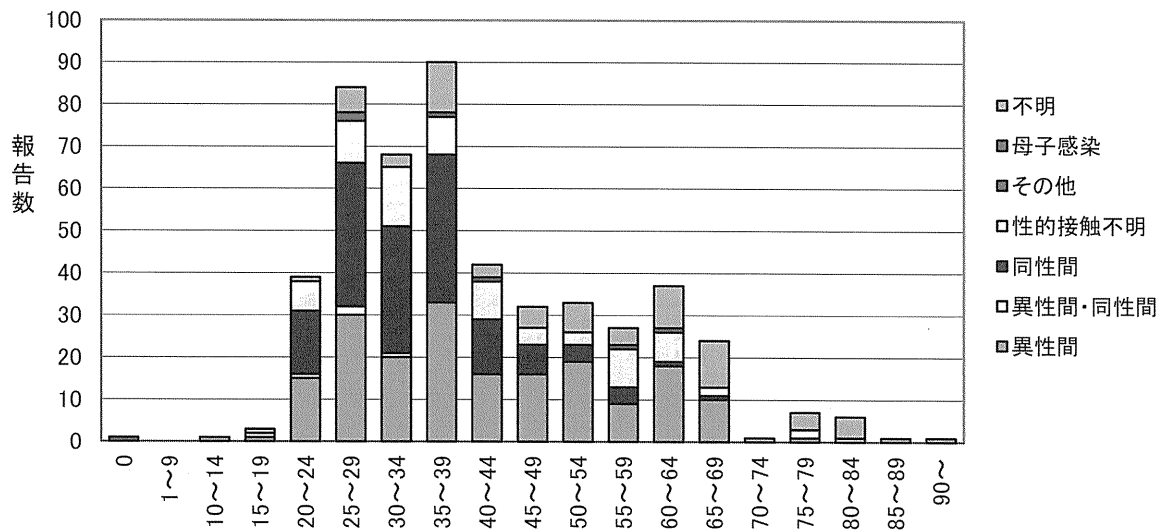
女性 n=470



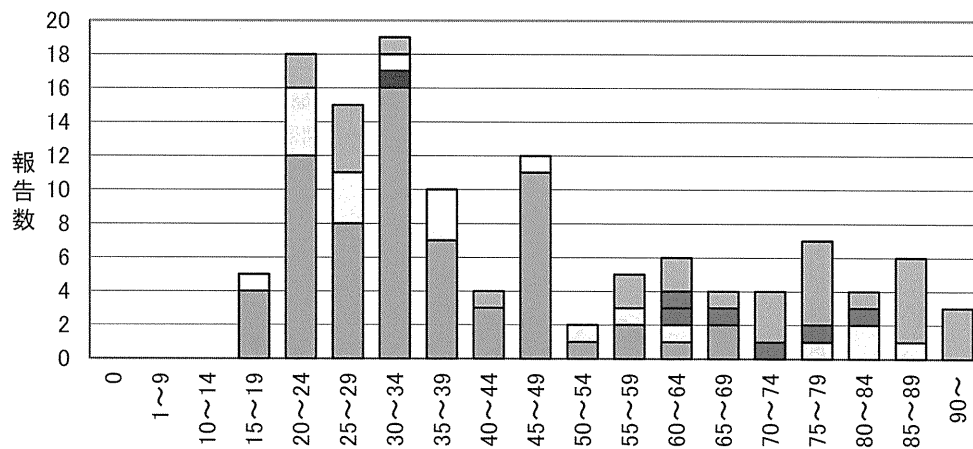
2012年3月3日現在

図12. 感染症発生動向調査による梅毒の年齢群別感染経路分布(2010年)

男性 n=497

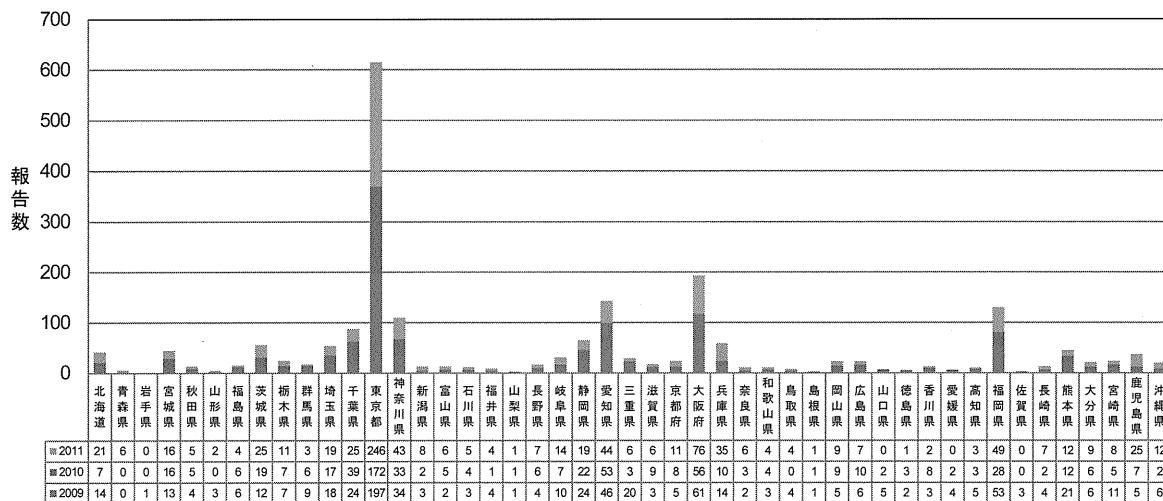


女性 n=124



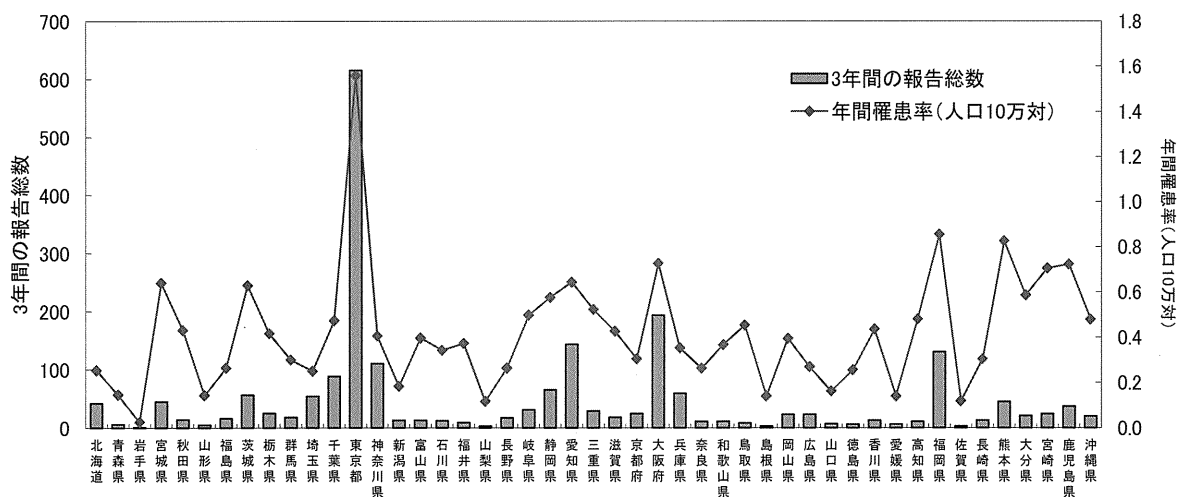
2012年3月3日現在

図13. 感染症発生動向調査による梅毒の都道府県別・年別報告数(2009～2011年) n=2139



2012年3月3日現在

図14. 感染症発生動向調査による梅毒の都道府県別報告数と罹患率(2009～2011年) n=2139



※年間罹患率は3年間を平均し、2010年国勢調査人口により算出

2012年3月3日現在

平成23年度厚生労働科学研究費(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)

「性感染症に関する予防、治療の体系化に関する研究」

分担研究報告書「性感染症の患者数全数把握の試み:2007-2011」

分担研究者 大日康史

国立感染症研究所感染症情報センター

岡部信彦

国立感染症研究所感染症情報センター

要旨

目的:本研究では、性感染症の実態を把握するために全数把握を行う。本稿ではこれまでの5年間に実施されてきた全数把握の状況を踏まえてまとめる。

方法:千葉県、兵庫県、石川県、岐阜県の4県は6年間、岩手県、茨城県、徳島県は2007年からの5年間参加した。対象疾患は、梅毒、淋菌感染症、咽頭淋菌感染症、非淋菌性尿道炎、性器ヘルペスウイルス感染症(初発あるいは初感染)、性器ヘルペスウイルス感染症(再発)、尖圭コンジローマ、性器クラミジア感染症(発症者)、性器クラミジア感染症(妊婦健診)、咽頭クラミジア感染症とした。

結果と考察:発生動向と本研究の調査の傾向が最も一致していたのは性器クラミジア感染症で、次いで性器ヘルペスウイルス感染症であった。尖圭コンジローマに関しては発生動向調査は機能していないことが示された。

A. 目的

性感染症の定点把握疾患に関しては、他の定点把握疾患以上に定点選択の困難さ、その代表性が問題視されている¹⁾。それを評価するためには実態を把握する必要がありその意

味で全数把握が必要となる。本稿ではこれまでに実施されてきた全数把握の状況²⁾を踏まえて、2011年度を加えた5年間について検討する。

B. 方法

地域的には千葉県、兵庫県、石川県、岐阜県、岩手県、茨城県、徳島県で、2007年から5年間を分析対象とする。2007年は11月に、2008年以降は9月に実施した。皮膚科・泌尿器科・産婦人科・性病科で以下の該当疾患に対して全数把握を行った。対象疾患は、梅毒、淋菌感染症、咽頭淋菌感染症、非淋菌性尿道炎、性器ヘルペスウイルス感染症（初発あるいは初感染）、性器ヘルペスウイルス感染症（再発）、尖圭コンジローマ、性器クラミジア感染症（発症者）、性器クラミジア感染（妊婦健診）、咽頭クラミジア感染症とした。

全数把握疾患の梅毒、定点把握4疾患（淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、性器クラミジア感染症）の報告基準は感染症発生動向調査における各疾患の報告基準を準用した。

評価は5年間の疾患毎性別毎の人口10万対での報告件数を示す。また、発生動向調査に対象となっている5疾患に関しては、発生動向での報告数も人口10万対として比較する。

また、5年間一貫して協力いただいた医療機関のみを対象とした同様の分析を行い、参加

医療機関の増減に関する見かけ上の変化を除いた分析も行う。なお、2007年は医療機関名の記載の状況が悪かったために照合が悪かったことを考慮し、2008年以降の4年間の一貫して協力いただいた医療機関のみを対象とした同様の分析も行った。

C. 結果

表1には各県別の回収率の推移を示している。図1～10には疾患ごとに7県合計（5年分）、図11～80には各県別（5年分）を疾患ごとにまとめている。

また表2には、継続して協力いただいた医療機関の推移と5年間継続して協力いただいた最終的な医療機関数が示されている。5年間継続医療機関のみでの発生動向調査でも調べられている5疾患に関して、図81～85は7県計の、図86～120は県毎の結果を示している。また表3には、2008年以降の4年間において継続して回答した医療機関のみを集計した医療機関の推移を示している。図121～125は7県計での、図126～160は県毎での4年間継続医療機関の状況を示している。また5年間と4年間での比較を7県計のみで、

図161～170に示している。

梅毒は男性については、全数調査と発生動向調査では同じ傾向である。女性については、全数調査と発生動向調査の動きに若干の乖離がみられる。淋菌感染症は、男性については、全数調査、発生動向調査ともに2009年から増加傾向にある。女性については、全数調査は2009年からやや増加傾向にあるが、発生動向調査は2008年から横ばいである。咽頭淋菌感染症は、男性については、2009年から横ばい傾向、女性については2009年からやや増加傾向にあるが、値が小さいため留意が必要である。非淋菌性尿道炎は、男性については、2008年から減少傾向にあったが2011年にやや増加した。女性については、年ごとに増減を繰り返しているが、値が小さいため留意が必要である。性器ヘルペスウイルス感染症(初発あるいは初感染)は、男性については、全数調査では2007年から2009年にかけて減少傾向にあったが2010年から増加に転じた。発生動向調査もほぼ同様の傾向にある。女性については、全数調査と発生動向調査ともに2009年からやや増加傾向にある。性器ヘルペスウイルス感染症(再発)は、男性については、

2007年から2009年にかけては横ばい傾向が続いたものの、2010年から減少傾向にある。女性については、2009年までは微増であったが、2010年から減少に転じた。

尖圭コンジローマは、女性において岐阜県の一医療機関において、2007～2009年は各年15件前後であったが、2010年は249件、2011年は128件2007～2009年と2010～2011年で大幅に異なる件数の報告があった。これは、報告としての誤りはなく事実であることが確認されている。そのために、岐阜県のみならず7県計においても、2010年ほどではないが2011年も高い水準となっている。男性については、全数調査は2009年からやや減少傾向にある。発生動向調査は多少の増減はあるものの2007年から2011年にかけてほぼ横ばいである。性器クラミジア感染症(発症者)は、男性については、全数調査は2009年から2010年にかけて減少したが、2011年に増加に転じた。発生動向調査は年々増加傾向にある。女性については、全数調査は年ごとに増減を繰り返しているが、発生動向調査は2009年以降やや増加している。性器クラミジア感染症(妊婦健診)は 男性については、数値も小さく

年ごとに増減を繰り返している。女性については、2009年までは減少傾向にあったが、2010年に増加に転じた。咽頭クラミジア感染症は、男性については、2010年のみ1例の報告があった。女性については、2009年までは増加しており、その後は横ばいであるが、値が小さいため留意が必要である。

D. 考察

岐阜県の一医療機関における女性の尖圭コンジローマが2010,2011年に突出しており、それが岐阜県全体においても、また7県合計においても引っ張っている。この報告については、問い合わせをして事実であることが確認されているために、岐阜県においては尖圭コンジローマの流行が女性においてあり、それが2011年も続いていると解釈される。これは発生動向調査では全く捉えられていない。少なくとも現在の定点では、今回のような明らかな大きな流行に対しても探知できない限界を露呈していると言えよう。

E. 結論

発生動向と本研究の調査の傾向が最も一

致していたのは性器クラミジア感染症で、次いで性器ヘルペスウイルス感染症であった。

尖圭コンジローマに関しては、発生動向調査の定点は発生状況を全く捉えていなかった。発生動向調査はそもそも流行探知というよりもむしろトレンド把握が目的であるが、トレンドに大きな影響を与えるような大きな流行も捉えておらず、感染症対策に有用であるとは言い難い。

参考文献

[1] 熊本悦明, 塚本泰司, 利部輝雄, 赤座英之, 野口昌良, 高杉豊, 守殿貞夫, 碓井亜, 香川征, 内藤誠二, 簗輪眞澄, 谷畑健生, 澤畑一樹. 日本における性感染症 (STD) サーベイランス—2001年度調査報告. 日本性感染症会誌 2002 ; 13: 147-67.

[2] 大日康史・岡部信彦, 「性感染症の患者数全数把握の試み」, 平成22年度厚生労働科学研究費 (新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業) 「性感染症に関する予防、治療の体系化に関する研究」 分担報告書, 2011.

F. 健康危険情報

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

G. 論文発表

特になし

特になし

表1 回収数および回収率(2007-2011)

年別 集計医療機関数

	2007年		2008年		2009年		2010年		2011年	
	回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率
兵庫県	492	(53.6%)	525	(59.6%)	586	(74.4%)	601	(76.3%)	560	(80.9%)
千葉県	331	(71.1%)	400	(76.5%)	512	(65.1%)	321	(40.8%)	307	(62.1%)
岐阜県	165	(47.7%)	176	(53.7%)	170	(49.3%)	206	(59.7%)	225	(65.2%)
石川県	101	(44.0%)	176	(92.9%)	163	(76.9%)	168	(79.3%)	185	(86.4%)
茨城県	434	(69.6%)	354	(58.7%)	322	-	324	-	304	-
岩手県	181	(79.8%)	155	(75.0%)	141	(69.3%)	149	(73.2%)	128	(64.1%)
徳島県	121	(74.2%)	115	(72.8%)	111	(74.2%)	88	(58.8%)	78	(55.7%)

注:回収率は、各県からの報告のものや、総医療機関数が不明な場合は仮定の数字(前年の総医療機関数等)で算出してのものもある

図1 梅毒 7県計
全数調査と発生動向調査の比較(2007-2011)

7県 計

※全体
※人口10万人あたり

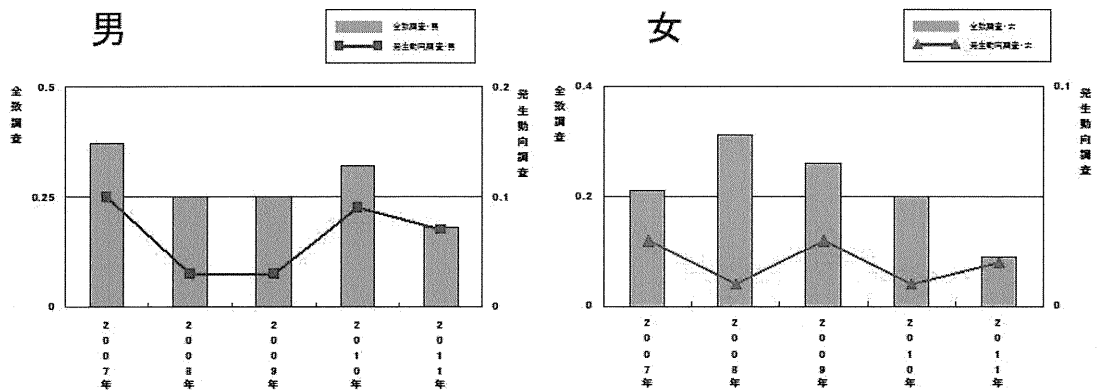


図2 淋菌感染症 7県計
全数調査と発生動向調査の比較(2007-2011)

※全体
※人口10万人あたり

7県計

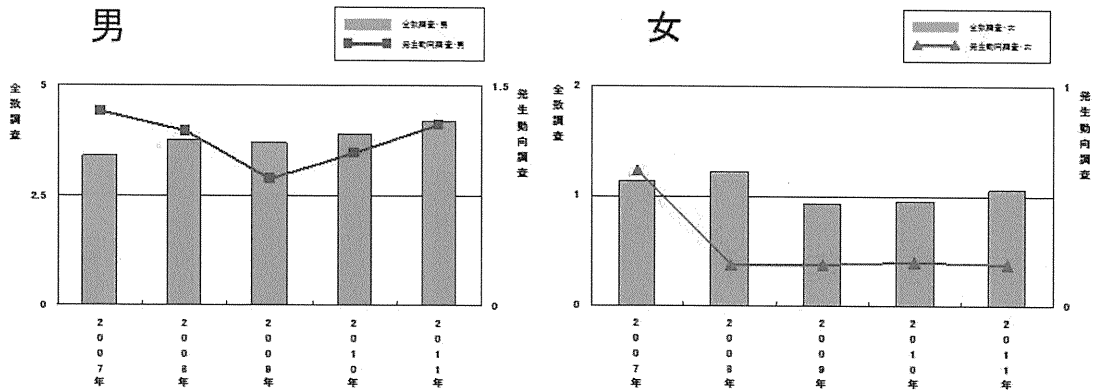


図3 咽頭淋菌感染症 7県計
全数調査と発生動向調査の比較(2007-2011)

※全体
※人口10万人あたり

7県計

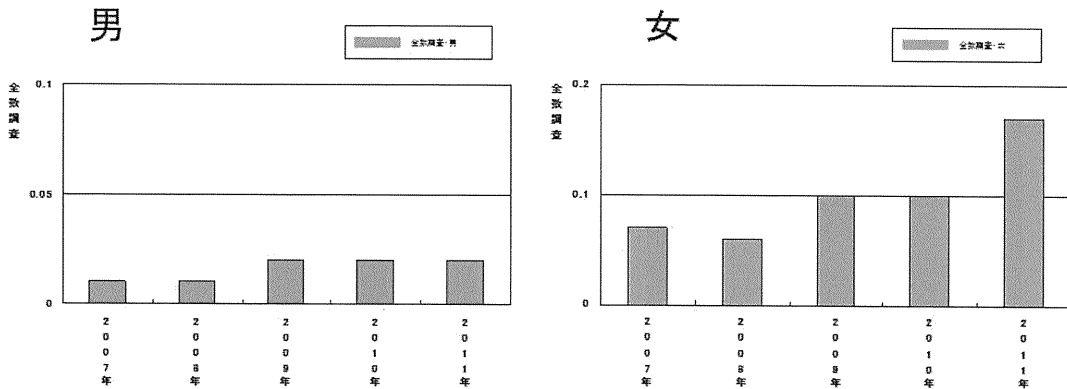


図4 非淋菌性尿道炎 7県計
全数調査と発生動向調査の比較(2007-2011)

※全体
※人口10万人あたり

7県計

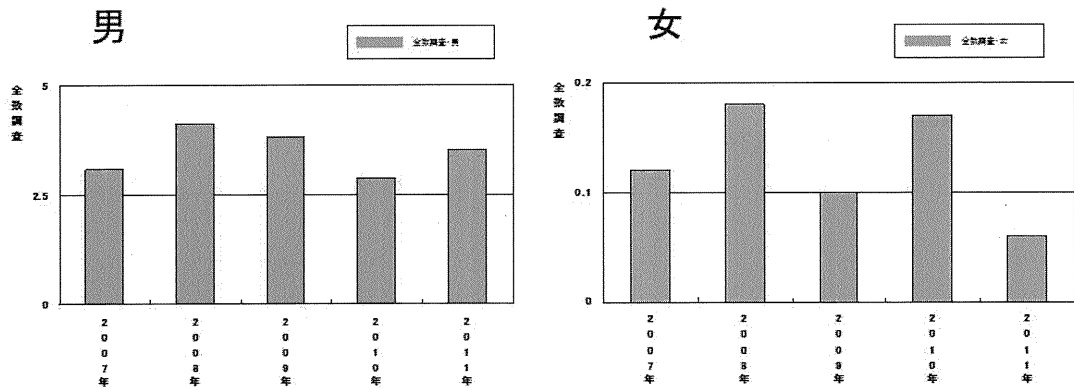


図5 性器ヘルペスウイルス感染症（初発あるいは初感染）7県計
全数調査と発生動向調査の比較(2007-2011)

※全体
※人口10万人あたり

7県計

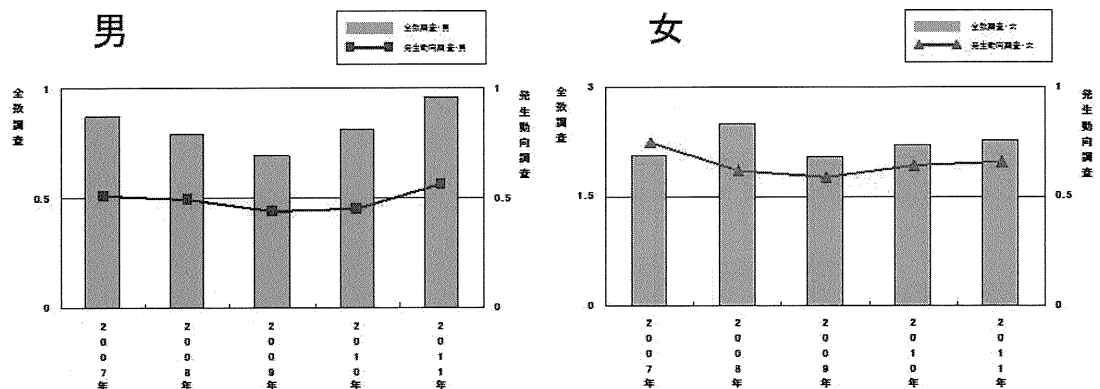


図6 性器ヘルペスウイルス感染症(再発) 7県計
全数調査と発生動向調査の比較(2007-2011)

7県計

※全体
※人口10万人あたり

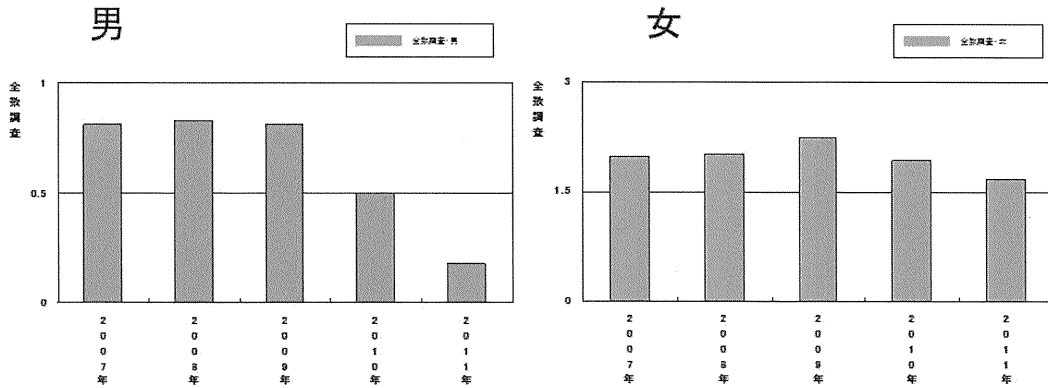
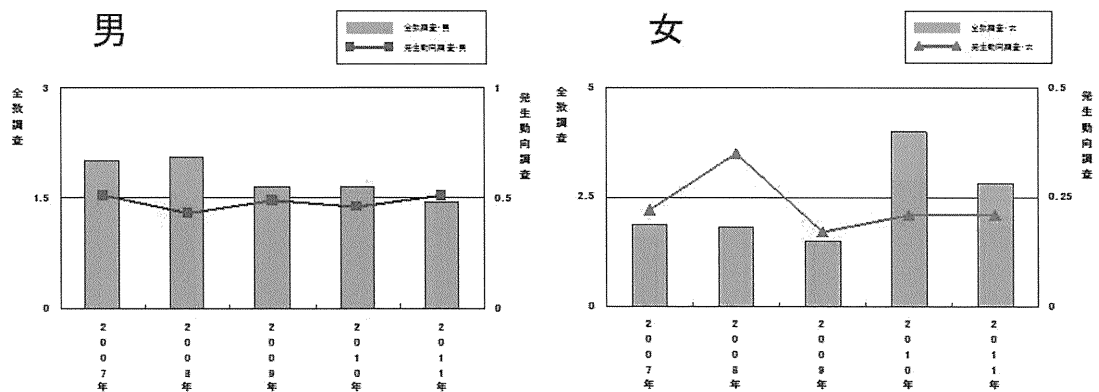


図7 尖圭コンジローマ 7県計
全数調査と発生動向調査の比較(2007-2011)

※全体
※人口10万人あたり

7県計



注:

岐阜県の一医療機関において、2010年に2007~2009年とは大層異なる件数の報告があったが、2011年の報告数は2010年の約半数であった(女性の尖圭コンジローマのみ)

図8 性器クラミジア感染症(発症者) 7県計
全数調査と発生動向調査の比較(2007-2011)

※全体
※人口10万人あたり

7県計

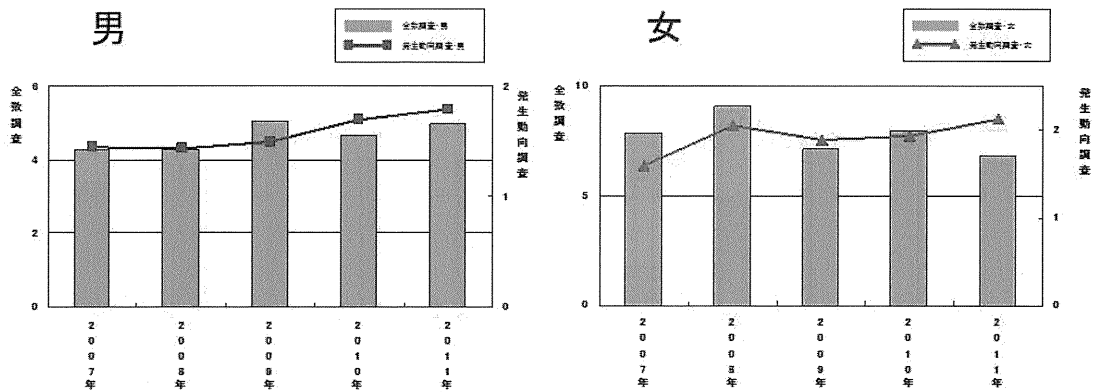


図9 性器クラミジア感染症(妊婦健診) 7県計
全数調査と発生動向調査の比較(2007-2011)

※全体
※人口10万人あたり

7県計

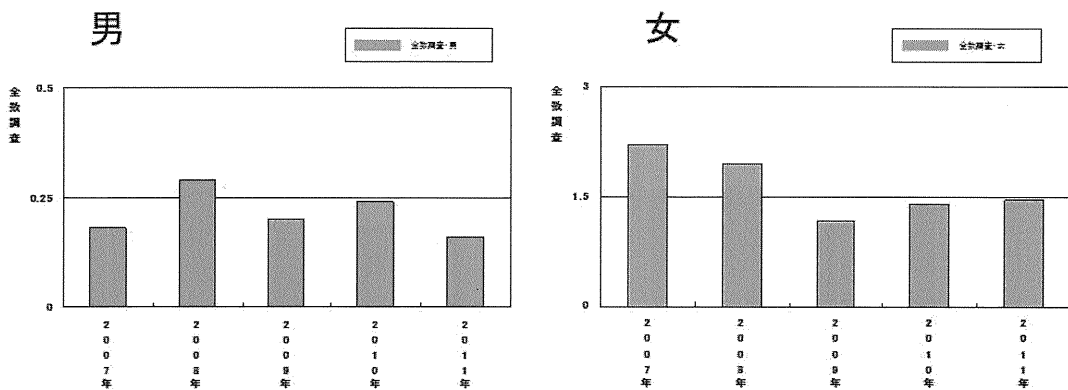


図10 咽頭クラミジア感染症 7県計
全数調査と発生動向調査の比較(2007-2011)

※全体
※人口10万人あたり

7県 計

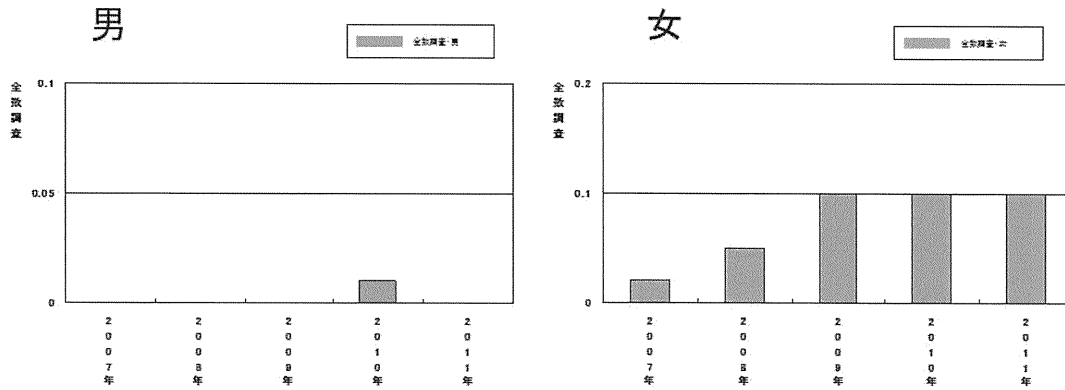


図11 梅毒 兵庫県
全数調査と発生動向調査の比較(2007-2011)

※全体
※人口10万人あたり

兵庫県

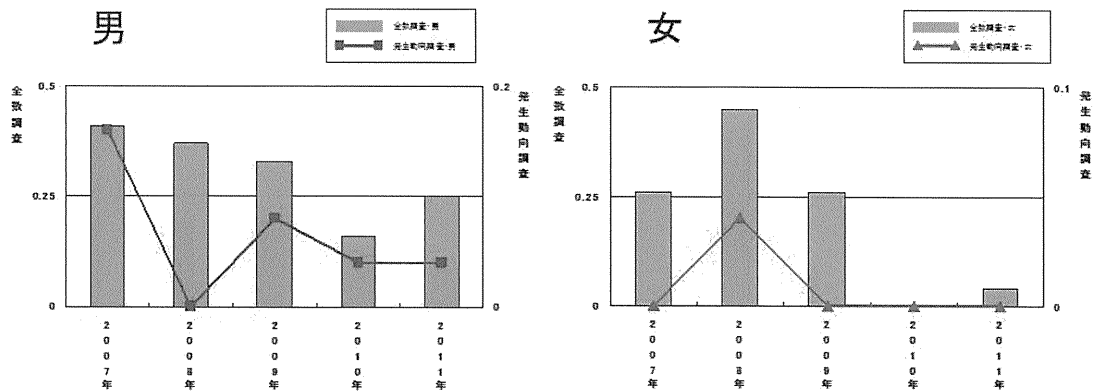


図12 淋菌感染症 兵庫県
全数調査と発生動向調査の比較(2007-2011)

※全体
※人口10万人あたり

兵庫県

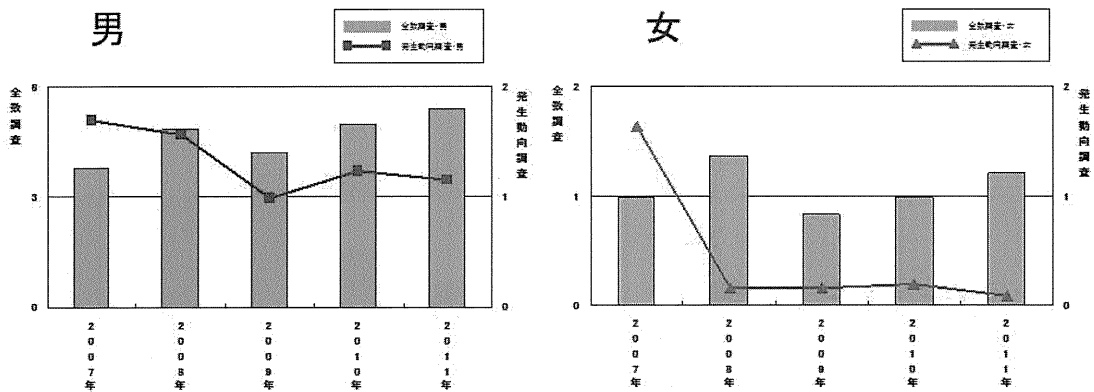


図13 咽頭淋菌感染症 兵庫県
全数調査と発生動向調査の比較(2007-2011)

※全体
※人口10万人あたり

兵庫県

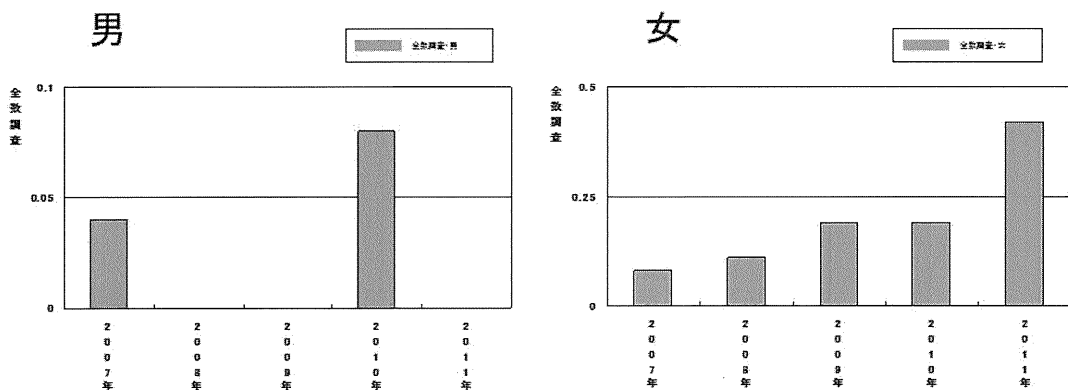


図14 非淋菌性尿道炎 兵庫県
全数調査と発生動向調査の比較(2007-2011)

※全体
※人口10万人あたり

兵庫県

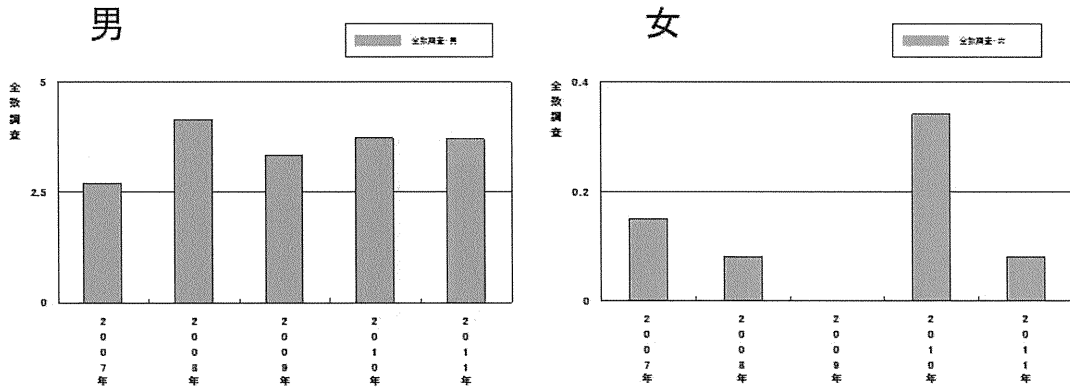


図15 性器ヘルペスウイルス感染症（初発あるいは初感染）兵庫県
全数調査と発生動向調査の比較(2007-2011)

※全体
※人口10万人あたり

兵庫県

